

2015年10月15日／浪宏友ビジネス縁起観塾／法華經の現代実践

原因・条件・結果・影響の原理

今回は、ビジネス縁起観の基盤である、原因・条件・結果・影響の原理を再確認したいと思います。
この原理は、仏教で説かれる存在の法則——縁起の法を、現代風に表現したものです。

1. 原因・結果の原理

原因・条件・結果・影響の原理の前提として、原因・結果の原理を学んでおきたいと思います。

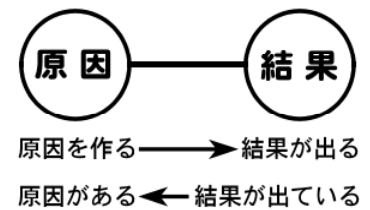
原因・結果の原理は、次のように説明することができます。

原因を作れば、結果が出ます。

結果が出ているからには、原因があります。

結果を出したければ、そのための原因を作ればいいのです。

結果を出したくなくなければ、原因を作らなければいいのです。



2. 現在の二つの顔の理論

「原因・結果の原理」から、「現在の二つの顔の理論」が導き出されます。

① 現在の第一の顔は「結果」という顔です。

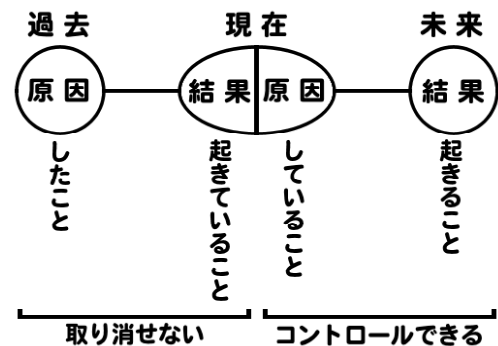
「現在起きていること」が「結果」であり、その「原因」は「過去にしたこと」です。

② 現在の第二の顔は「原因」という顔です。

「現在起きていること」が「原因」であり、その「結果」は「未来に起きること」です。

③ 「過去のしたこと」と「現在起きていること」は、もとに戻すことも、取り消すこともできません。

④ 「現在起きていること」はコントロールできますから、「未来に起きること」はコントロールすることができます。



3. 「原因・結果の原理」と「原因・条件・結果・影響の原理」の関係

「原因・結果の原理」をより詳しくみたものが、「原因・条件・結果・影響の原理」です。

前者の「原因」が后者の「原因・条件」となり、前者の「結果」が后者の「結果・影響」となっています。

4. 原因・条件・結果・影響の原理

原因・条件・結果・影響の原理は、次のように説明できます。

原因：ものごとが起きるには、必ず、原因があります。

しかし、原因だけでは何も起きません。

条件：ものごとが起きるには、必ず、条件があります。

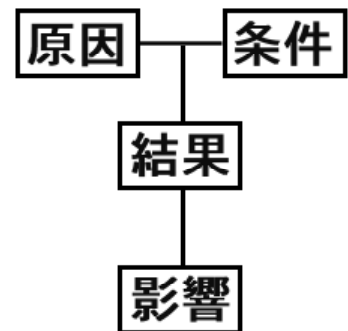
しかし、条件だけでは何も起きません。

結果：原因と条件が会おうと、必ず、ものごとが起きます。

起きたものごとを結果と言います。

影響：結果がそれだけで終わることはありません。

必ず、あとあとに影響を残します。



5. 原因・条件・結果・影響の原理の説明

原因・条件・結果・影響の原理から、次のことが分かります。当たり前のことを言っているにすぎませんが、必要なときにこれらが念頭に浮かぶことが大事です。

(1) 結果を変える

同じ条件のもとで、結果を変えるには、原因を変えればよい。

同じ原因のもとで、結果を変えるには、条件を変えればよい。

(2) 結果を変えない

原因が変わったとき、結果を変えないためには、条件を調整すればよい。

条件が変わったとき、結果を変えないためには、原因を調整すればよい。

(3) 求める結果を出す

同じ条件のもとで、求める結果を出すには、原因を調整すればよい。

同じ原因のもとで、求める結果を出すには、条件を調整すればよい。

条件が変化する中で、求める結果を出すには、条件の変化に応じて原因を調整すればよい。

原因が変化する中で、求める結果を出すには、原因の変化に応じて条件を調整すればよい。

(4) 特定の結果を出さない

同じ条件のもとで、特定の結果を出さないためには、原因を調整すればよい。

同じ原因のもとで、特定の結果を出さないためには、条件を調整すればよい。

条件が変化する中で、特定の結果を出さないためには、原因を調整すればよい。

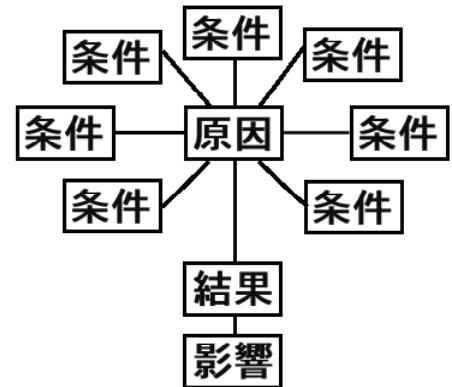
原因が変化する中で、特定の結果を出さないためには、条件を調整すればよい。

6. 「条件」は多様

(1) 「条件」はひとつではない

一人の人間を「原因」と考え、この人が接する他の人びとを「条件」と考えた場合、実に多くの「条件」に取り巻かれていることが分かります。

家族、仕事で出会う人々、遊びで出会う人々、町中で出会う人々、テレビの映像を通して接する人々などなど、多種多様です。



(2) インパクトの違い

ひとつの「原因」が数多くの「条件」に接しているとはいえ、それぞれの「条件」から受けるインパクトは「条件」ごとに異なります。インパクトが強い「条件」ほど、「結果・影響」に大きく響きます。

(3) 目の前の人

目の前にいる人も、自分以外の多くの人と接して、なんらかのインパクトを受けていることを忘れてはならないと思います。

この人が、自分の与えたインパクトに反応しないときは、次の二つのいずれかであると考えられます。

- ① この人のもつ「原因」が、自分が与えたインパクトに反応できる状態ではない場合。
- ② 自分が与えたインパクトよりも、もっと大きいインパクトを他から与えられている場合。

7. 「影響」について

(1) 連鎖

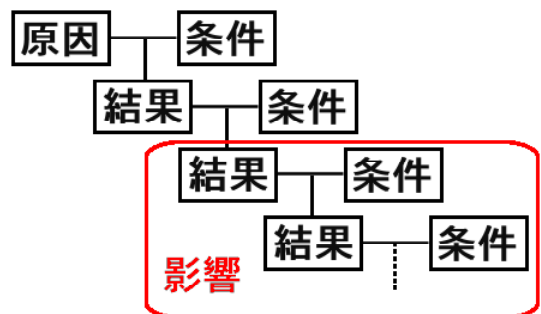
右の図のように、「原因—条件—結果」は連鎖します。この連鎖を「影響」と呼んでいます。

この連鎖は、際限なく続きます。

(2) 影響は必ずある

「影響」の説明に、「結果はそれだけで終わることはありません。必ず、あとあとに影響を残します。」とあります。

結果はすぐに他の条件に触れるため、必ず、次の結果を生むからです。



8. 原因・条件・結果・影響の原理が言いたいこと

(1) つながり合っている

原因・条件・結果・影響の原理から、自分は多くの人々とつながり合い、影響し合いながら生きていることが分かります。

よりよくつながり合うことができれば、そこには幸福が生まれます。

(2) 変わり続けている

原因・条件・結果・影響の原理から、自分も他の人々も互いに影響し合いながら、変わり続けていることが分かります。

よりよく変わることができれば、そこに幸福が生まれます。

(3) みんな幸福に

原因・条件・結果・影響の原理は、人間同士、お互いによりよくつながり合い、よりよく変わり続けてくださいと、言っているのではないのでしょうか。

9. 応用理論

原因・条件・結果・影響の原理から、さまざまな応用理論が生み出されます。

次の理論は、この講座でも説明させていただきました。

企画立案のアルゴリズム

問題解決のアルゴリズム

人間関係のフレームワーク

人材育成のフレームワーク